

令和5年度宇治市乳幼児教育・保育推進事業研修通信

令和6年2月22日に開催しました「宇治市保幼こ小合同研修講座Ⅱ」の参加者からのご質問(受講報告書より)にお答えいたします。



なぜ今、宇治市で保幼こ小の取組に力を入れて進めているのか、最初に少し説明してもらえたら、より分かりやすかったと感じました。

はい、お答えします。



国の動向

教育・保育は、子ども一人ひとりの生涯にわたる発達や学びの連続性を見通して行われるものです。

その中で、義務教育開始前となる5歳児は、それまでの経験を生かしながら新たな課題を発見し、新しい方法を考えたり試したりして実現しようとしていく時期であり、また、義務教育の初年度となる小学校1年生は、自分の好きなことや得意なことが分かっていく中で、それ以降の学びや生活へと発展していく力を身に付ける時期になります。

この時期の教育は、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校という多様な施設がそれぞれの役割を担っており、子どもの成長を切れ目なく支える観点からは、それらの施設が相互理解を深め、子どもの円滑な接続により一層意識して、教育の内容や方法を工夫することが重要です。

また、5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期であることから、この時期を「架け橋期」と命名し、その時期に求められる教育の内容等を改めて可視化し、子どもに関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現等を目指しています。

【参考 幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)】

宇治市の取組状況

現在、宇治市では、乳幼児教育・保育支援センター準備室を中心として、教育部と福祉部局が一体となって連携・協働し、市内就学前施設と小学校のネットワーク構築を進めているところです。

今年度につきましては、保育所、認定こども園、幼稚園、療育施設及び小学校の職員で構成する検討会議を実施し、連携を推進する仕組みについて検討を進めてきました。

具体的には、その会議等において「あらかじめ連携する保育所等と小学校のペアが決まっていると保幼小連携の取組を進めやすい」との意見をいただいたことを踏まえ、保育所等と小学校に対し、取組推進に向けたアンケートを実施し、そのアンケート結果をもとに、保育所等と小学校をグループ化した連携の枠組みとしての「(仮称)架け橋ブロック」をつくり、このブロックをベースに次年度より保幼小連携を進めていく予定です。

そこで、令和5年度の保幼小連携に関する研修では

- ① 育ちと学びをつなぐ必要性について学び合う
- ② 日々の教育・保育実践に活かす具体的な視点を学び合う
- ③ 校種や施設類型を越えて、顔の見える関係をつくる

主に3点をポイントに、以下の内容で実施しました。

【保幼小合同研修講座Ⅰ】では

- ・ 幼児教育を学んだ小学校教員の実践報告
- ・ 小学校区を基本としたグループ協議
- ・ 京都府幼児教育アドバイザーの指導助言



【保幼小合同研修講座Ⅱ】では

- ・宇治市教育研究員※(幼小接続研究部会)のペア研究報告
- ・小学校区を基本としたグループ協議
- ・京都府幼児教育スーパーバイザーの指導助言

※ 本市学校教育の充実・振興を図るため、教職員の積極的な研究活動を推進することを目的として、宇治市立幼稚園、小学校及び中学校に勤務する教職員で、教職勤務3年以上の経験をもち、教育に関する研究に対して識見と熱意を有するものを委嘱



宇治市教育研究員のペア研究報告について、紙面でいただけるようであれば、是非参考にさせていただきたいのですが…。

うちのブロックの参考になるのは、どの研究ですか？



はい、このホームページ上で公開いたしますので、ぜひご活用ください。

「無理なく、持続可能な連携を目指したい」ブロックには…

① 木幡幼稚園と木幡小学校の研究
テーマ
「サステナブルな幼小連携・接続」

「まずは、教員・保育者同士の交流や相互理解を深めたい」ブロックには…

② 神明幼稚園と菟道小学校の研究
テーマ
「幼児期の遊びを通し育まれた力が小学校生活へどのようにつながっていくのかを探る～幼児期の遊びと生活科の授業を通して～」

「以前から交流は積み重ねているので、次は接続期のカリキュラムに挑戦したい」ブロックには…

③ 東宇治幼稚園と南部小学校の研究
テーマ
「幼小の円滑な接続のためにできること～環境をみつめなおす～」

参加者の心に残った指導助言(受講報告書より)

保幼小合同研修講座Ⅰ

京都府幼児教育アドバイザー 狩野 理恵子先生の指導助言より

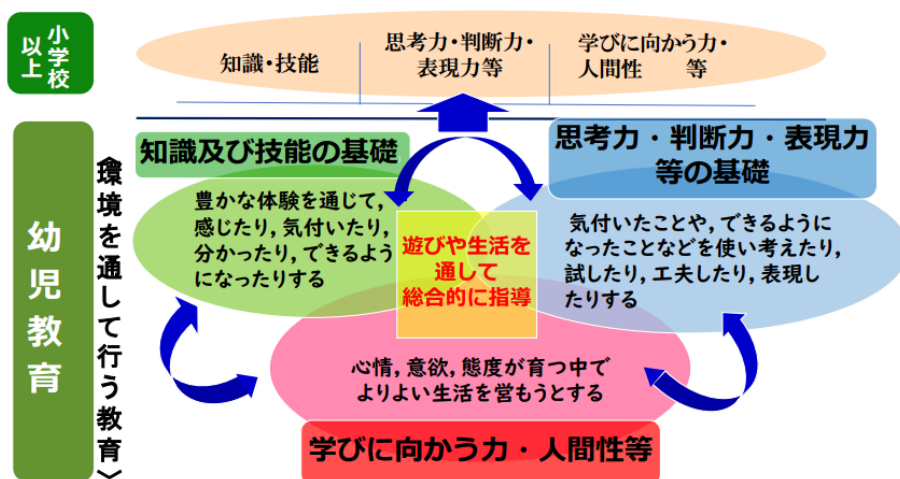
- ・ 子どもの発達や学びは連続しているため、就学前施設から小学校への移行を円滑にする必要はありますが、それは小学校教育の先取りをすることではありません。幼児期にふさわしい教育を行うことが最も肝心なことです。

保幼小合同研修講座Ⅱ

京都府幼児教育スーパーバイザー 古賀 松香 先生の指導助言より

- ・ 子どもたちのために互いの教育・保育を「知りたい」「活かしたい」と双方が願うことが連携・接続を進めていく上で大切です。
- ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに子どもの姿から相互理解や実践を深めていくことが大切ですが、幼小が一貫して育てたいのは、資質・能力※であり、その考え方で教育をつなげることが必要です。
- ・ 単なる交流活動のみを繰り返すのではなく、教育実践の核となる価値や理念に立ち返って確認し合い、対話を通して互いの専門性を広げる共同体となって、教育・保育を改善していくことが必要です。

※ 幼児教育において育みたい資質・能力



令和4年度 幼児教育の理解・発展推進事業【中央協議会】シンポジウム資料より